



## 2023年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月3日

上場会社名 株式会社メディカルー光グループ 上場取引所 東  
 コード番号 3353 URL <https://www.m-ikkou.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 南野 利久  
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 財務・IR部長 (氏名) 遠山 邦彦 (TEL) 059(226)1193  
 四半期報告書提出予定日 2022年10月14日 配当支払開始予定日 2022年11月4日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年2月期第2四半期の連結業績(2022年3月1日～2022年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第2四半期	16,978	1.0	465	△27.8	598	△12.3	374	△15.7
2022年2月期第2四半期	16,812	8.3	645	63.3	682	69.6	444	2.1

(注) 包括利益 2023年2月期第2四半期 352百万円(△16.5%) 2022年2月期第2四半期 421百万円(48.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年2月期第2四半期	99.65	—
2022年2月期第2四半期	118.22	—

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 前第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年2月期第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年2月期第2四半期	28,308	12,207	41.2
2022年2月期	29,094	11,927	39.1

(参考) 自己資本 2023年2月期第2四半期 11,651百万円 2022年2月期 11,383百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2023年2月期	—	20.00	—	—	—
2023年2月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年2月期の連結業績予想(2022年3月1日～2023年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	34,450	2.5	1,380	8.2	1,400	3.1	855	0.3	227.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年2月期2Q	4,070,000株	2022年2月期	4,070,000株
② 期末自己株式数	2023年2月期2Q	312,973株	2022年2月期	313,973株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年2月期2Q	3,756,266株	2022年2月期2Q	3,756,093株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年3月1日～2022年8月31日)における我が国の経済は、新型コロナウイルスの感染状況に一時的な落ち着きがみられ、人出の増加を背景とする個人消費の緩やかな回復が期待される状況にありました。しかしながら、本年6月以降、急速な感染の再拡大に加え、資源高や円安等を背景とする物価上昇等により、景気の下押しリスクが懸念される状況となりました。当面は、世界的な物価上昇等が国内景気に及ぼす影響に十分留意する必要があるとみられております。

このような環境のもと、当社グループは引き続き感染防止対策を徹底しながらも、新型コロナウイルスとの共生に向けた取り組みを進め、患者さま、利用者さまの安全確保に注力し、事業活動の継続に努めてまいりました。

調剤薬局事業におきましては、2022年3月に中核子会社である株式会社メディカルー光が、その子会社(当社孫会社)の株式会社山梨薬剤センター、有限会社クローバーを統合し、事業運営の一体化、経営の効率化を促進しました。また、同年7月にはフラワー薬局名張東店をオープンし、質を重視した新規出店を進めるとともに、既存店舗の改装・強化も図りながら、地域連携薬局や専門医療機関連携薬局の拡大に注力いたしました。また、薬局へのご来店が困難な患者さまのニーズに対応していく在宅市場への取組みも着実に進めております。こうした活動を通して患者さま一人ひとりの満足度を高め、地域の皆さまに選ばれる薬局づくりを行っております。

ヘルスケア事業におきましては、コロナ禍における利用控えが長期化する中、介護サービス利用者さまが安心して施設を利用できる体制を整えるべく、介護人材の安定的な確保を優先し、介護サービスの質の向上に取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高16,978百万円(前年同期比1.0%増)、営業利益465百万円(前年同期比27.8%減)、経常利益598百万円(前年同期比12.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は374百万円(前年同期比15.7%減)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、第1四半期には一時的に落ち着きがみられた新型コロナウイルスの感染状況が、第2四半期に入り急速に再拡大したことに加え、本年6月以降の記録的な猛暑の影響も重なり、当第2四半期連結累計期間の既存店応需処方箋枚数は前年同期比微減となりました。但し、調剤薬局事業全体の売上高は2022年2月に開局した居宅療養管理指導に特化した店舗や、同年7月に開局したフラワー薬局名張東店等の売上が寄与し増収を確保しました。

この結果、売上高11,580百万円(前年同期比2.1%増)、営業利益736百万円(前年同期比0.7%増)となりました。なお、当第2四半期末における当社グループの調剤薬局は合計94店舗となっております。

#### (ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、第1四半期に通所介護事業所および複数の施設で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生したことにより、デイサービスを主体に稼働率が前期に比べ低下いたしました。一方、施設スタッフの処遇改善および適正配置による感染症対策を徹底し、労務費の増加、施設運営に不可欠な電気代やガス代など光熱費の高騰も重なり、コストが膨らんでおります。足元ではクラスターの影響はほぼ収束しており、当社グループとしては、施設をご利用頂く皆さまが安心して快適に過ごせる介護サービスの実現に努めております。

この結果、売上高3,901百万円(前年同期比0.9%減)、営業利益34百万円(前年同期比76.2%減)となりました。なお、当第2四半期末における当社グループの居住系介護サービスは、合計42施設(居室数1,417室)、在宅系介護サービスにおいては、通所介護事業所22ヶ所、居宅介護支援事業所18ヶ所、小規模多機能ホーム10施設、福祉用具レンタル・販売7拠点、訪問介護事業所9ヶ所、訪問看護事業所3ヶ所、ショートステイ1施設と、幅広く介護サービスを提供しております。

#### (医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品の安定供給が課題となる中、事業の中核を担う株式会社メディカルー光とその子会社(当社孫会社)の大豊薬品株式会社を、2022年3月に統合し、営業体制の強化を進めてまいりました。収益環境は、薬価改定の影響から厳しさを増しておりますが、事業の一体運営により経費抑制に努めております。

この結果、売上高1,402百万円(前年同期比1.5%減)、営業利益19百万円(前年同期比61.0%減)となりました。(内部売上を含む売上高は1,898百万円となり、前年同期比で3.5%減少しました。)

## (不動産事業)

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高94百万円(前年同期比18.8%減)、営業利益60百万円(前年同期比7.3%減)となりました。

また、投資事業におきましては、投資有価証券売却損益5百万円を計上しております。

なお、セグメント間の内部売上高として496百万円を消去するとともに、全社における共通経費として385百万円を計上しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は28,308百万円となり、前連結会計年度末と比較して786百万円減少いたしました。

流動資産の合計は14,024百万円となり、前連結会計年度末と比較して552百万円減少いたしました。これは主に、売掛金が284百万円、流動資産のその他が80百万円それぞれ増加したものの、現金及び預金が965百万円減少したこと等によるものです。固定資産の合計は14,283百万円となり、前連結会計年度末と比較して233百万円減少いたしました。これは主に、建物及び構築物(純額)が181百万円、のれんが107百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

負債合計は16,100百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,065百万円減少いたしました。これは主に、流動負債のその他が141百万円増加し、長期借入金(1年内返済予定を含む)及び短期借入金が1,076百万円減少したこと等によるものです。

純資産合計は12,207百万円となり、前連結会計年度末と比較して279百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が299百万円増加したものの、その他有価証券評価差額金が34百万円減少したこと等によるものです。

## ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同現物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末と比較して958百万円減少し6,830百万円となりました。これは、営業活動によるキャッシュ・フローで496百万円増加したこと、投資活動によるキャッシュ・フローで291百万円減少したこと、財務活動によるキャッシュ・フローで1,163百万円減少したことによるものです。

当第2四半期連結累計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、496百万円(前年同期比161百万円の増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益624百万円、減価償却費及びのれん償却額417百万円があったものの、法人税等の支払287百万円、売上債権の増加250百万円があったこと等によるものです。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、291百万円(前年同期比244百万円の支出増加)となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入68百万円があったものの、有形固定資産の取得による支出183百万円、敷金及び保証金の差入による支出113百万円、投資有価証券の取得による支出101百万円があったこと等によるものです。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、1,163百万円(前年同期は1,314百万円の収入)となりました。これは主に、短期借入金及び長期借入金1,076百万円の純減少、配当金の支払75百万円があったこと等によるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月期の連結業績予想につきましては、現時点において2022年4月8日公表の数値から変更はありませんが、修正が必要な事象が生じた際には速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,992,461	7,027,011
売掛金	4,890,612	5,175,037
商品	1,214,011	1,261,980
その他	482,691	562,865
貸倒引当金	△2,288	△2,388
流動資産合計	14,577,486	14,024,505
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,825,315	5,643,487
土地	3,739,216	3,762,841
その他(純額)	299,973	349,733
有形固定資産合計	9,864,505	9,756,062
無形固定資産		
のれん	1,536,222	1,428,584
その他	177,185	170,305
無形固定資産合計	1,713,408	1,598,890
投資その他の資産		
投資有価証券	1,104,507	1,092,704
敷金及び保証金	906,042	934,639
その他	928,306	901,361
投資その他の資産合計	2,938,856	2,928,705
固定資産合計	14,516,769	14,283,657
資産合計	29,094,256	28,308,163
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	46,847	40,442
買掛金	3,434,630	3,409,073
短期借入金	170,000	160,000
1年内返済予定の長期借入金	3,562,395	3,318,917
未払法人税等	279,828	218,269
賞与引当金	226,908	247,801
その他	695,487	837,027
流動負債合計	8,416,097	8,231,531
固定負債		
長期借入金	7,372,883	6,550,092
リース債務	207,131	199,177
退職給付に係る負債	761,406	778,186
その他	408,878	341,572
固定負債合計	8,750,301	7,869,029
負債合計	17,166,398	16,100,560

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	917,000	917,000
資本剰余金	1,080,381	1,081,272
利益剰余金	9,948,627	10,247,847
自己株式	△541,555	△539,830
株主資本合計	11,404,452	11,706,288
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△20,093	△54,615
退職給付に係る調整累計額	△1,295	△647
その他の包括利益累計額合計	△21,389	△55,263
非支配株主持分	544,795	556,577
純資産合計	11,927,858	12,207,602
負債純資産合計	29,094,256	28,308,163

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
売上高	16,812,994	16,978,990
売上原価	14,995,783	15,340,148
売上総利益	1,817,210	1,638,841
販売費及び一般管理費	1,172,106	1,173,196
営業利益	645,104	465,645
営業外収益		
受取利息	724	678
受取配当金	16,678	20,422
助成金収入	33,173	67,125
前受金取崩益	-	48,528
その他	18,230	24,283
営業外収益合計	68,806	161,038
営業外費用		
支払利息	29,758	26,567
その他	1,701	1,769
営業外費用合計	31,460	28,336
経常利益	682,450	598,347
特別利益		
固定資産売却益	1,018	20,774
投資有価証券売却益	104,300	6,056
特別利益合計	105,318	26,831
特別損失		
固定資産売却損	1,109	-
固定資産除却損	854	94
投資有価証券売却損	-	618
賃貸借契約解約損	4,352	-
特別損失合計	6,315	712
税金等調整前四半期純利益	781,453	624,466
法人税、住民税及び事業税	324,050	209,178
法人税等調整額	5,673	29,193
法人税等合計	329,723	238,371
四半期純利益	451,729	386,094
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,673	11,753
親会社株主に帰属する四半期純利益	444,056	374,340



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益	451,729	386,094
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△28,839	△34,493
退職給付に係る調整額	△1,223	647
その他の包括利益合計	△30,062	△33,845
四半期包括利益	421,666	352,248
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	413,946	340,467
非支配株主に係る四半期包括利益	7,720	11,781

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年3月1日 至2021年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	781,453	624,466
減価償却費	310,158	309,832
のれん償却額	122,977	107,637
賞与引当金の増減額(△は減少)	28,270	20,893
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	22,651	17,710
受取利息及び受取配当金	△17,402	△21,100
支払利息	29,758	26,567
投資有価証券売却損益(△は益)	△104,300	△5,438
固定資産売却損益(△は益)	90	△20,774
固定資産除却損	854	94
売上債権の増減額(△は増加)	△266,510	△250,722
棚卸資産の増減額(△は増加)	△171,595	△47,969
仕入債務の増減額(△は減少)	170,916	△31,961
その他	△147,170	60,114
小計	760,152	789,348
利息及び配当金の受取額	16,981	20,724
利息の支払額	△30,929	△26,110
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△411,772	△287,663
営業活動によるキャッシュ・フロー	334,432	496,298
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△260,178	△183,143
有形固定資産の売却による収入	2,368	20,805
無形固定資産の取得による支出	-	△8,114
投資有価証券の取得による支出	△402,448	△101,516
投資有価証券の売却による収入	602,900	68,652
敷金及び保証金の差入による支出	△1,005	△113,150
敷金及び保証金の回収による収入	2,222	44,552
その他	9,613	△19,361
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,527	△291,276
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△80,000	△10,000
長期借入れによる収入	2,550,000	650,000
長期借入金の返済による支出	△1,809,023	△1,716,268
リース債務の返済による支出	△21,712	△12,484
非支配株主からの払込みによる収入	750,000	-
配当金の支払額	△75,123	△75,120
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,314,140	△1,163,874
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,602,045	△958,851
現金及び現金同等物の期首残高	6,805,529	7,789,797
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,407,574	6,830,946

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取れると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、第1四半期連結会計期間の期首利益剰余金に与える影響はありません。また、当会計基準等の適用による、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	調剤薬局 事業	ヘルスケア 事業	医薬品卸 事業	不動産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,336,945	3,935,598	1,424,274	116,175	16,812,994	—	16,812,994
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	300	543,466	960	544,726	△544,726	—
計	11,336,945	3,935,898	1,967,741	117,135	17,357,721	△544,726	16,812,994
セグメント利益	730,689	145,734	50,380	65,317	992,122	△347,018	645,104

(注) 1 セグメント利益の調整額△347,018千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用700,188千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	調剤薬局 事業	ヘルスケア 事業	医薬品卸 事業	不動産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,580,107	3,901,925	1,402,634	94,322	16,978,990	—	16,978,990
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	300	495,372	876	496,549	△496,549	—
計	11,580,107	3,902,225	1,898,007	95,199	17,475,539	△496,549	16,978,990
セグメント利益	736,051	34,684	19,623	60,541	850,901	△385,256	465,645

(注) 1 セグメント利益の調整額△385,256千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用753,151千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。